

最近の外来状況

6月から7月にかけて、次第に気温が上がってきました。昨年に比べると、朝夕の気温が下がる日がまだ見られます。その影響かと思われますが、咳、鼻汁の力ぜがまだ多くみられます。

その一方で手足口病、ヘルパンギーナ（ともにエンテロウイルスが原因）が小流行しています。

咽頭痛、咽頭発赤のみで終わるタイプもあれば、38-39℃の高熱を伴うこともあります。

しかし、3日間で自然に解熱するケースが多く、重症は少ないです。

さらに、ウイルス性胃腸炎も見かけます。嘔吐、下痢で脱水までいくこともありますが、軽症が多い印象です。



部活動などで高気温下で活動している中高生は熱中症に注意です。

嘔気・嘔吐→頭痛と症状が進んでいきます。こまめな水分補給、安静が必要です。



気圧の変化が激しいと低気圧に伴う頭痛（気象痛）が起ります。

脳浮腫状態のため、五苓散が有効です。全身倦怠感、食欲低下を伴うときは、補中益気湯と五苓散の内服が有効です。この2つの製剤は錠剤もあります。



あなたは“葛根湯”を何に使いますか？

外来の一風景です。

「おはようございます」

「今回は葛根湯をたくさん出して下さい」

「あなたは葛根湯を何に使いますか？」となります。

その人が何の目的で葛根湯を使っているかは、お尋ねしないとわかりません。



「私は、産婦人科で**乳腺炎**に使って下さい、と言われました」

「私は、皮膚科で**慢性じんましん**に使って下さい、と言われました」

「私は、**首のリンパ腺が腫れた**ときに処方されました」

「私は、**結膜炎**になると点眼薬を使わずに葛根湯を飲んでいます」

「私は、**鼻カゼ（鼻炎）**で朝困ったときに1包飲むと会社に着く頃に鼻水が止まります」

「子どもが**中耳炎**のときに葛根湯を飲むと、1～2日で治るので使っています」

※それぞれが上手に葛根湯を使っておられます。

熱いお湯でフーフーしながら飲むと効果的だ、と言われる方が多いです。

※横隔膜から上の上半身の炎症に有効なことが分かります。

※腹診で葛根湯の圧痛点を認めることがあります。

